

令和6年 阪南2区におけるアマモ養成活動の概要

岸和田市沖の人工島「ちきりアイランド(阪南2区)」の北側では、人工干潟や石積みの緩傾斜護岸の整備から20年余りが経過し、徐々に独自の生態系を築きつつあります。この海域の生物相をより豊かなものとするため、CIFER・コアと NPO 法人大阪海さくらは、令和3年から共同事業としてアマモ苗の移植活動を行ってきました。

[令和5年度のアマモ養成事業](#)に引き続き、令和6年度の取り組みについてご報告します。



▲石積み護岸に繁茂する藻類

アマモの移植活動

大阪海さくらは、アマモ育苗ポットを使い、一般市民などの協力者が秋から冬にかけて自宅で育てたアマモを大阪湾の浅海域に移植する活動に取り組んでいます。CIFER・コアは、阪南2区においてこの活動に協力しており、令和6年度は、養成コンテナに移植したアマモ苗を北側緑地の海域(水深約1m)に沈め、移植直後の4月からアマモが自然に枯死する7月まで、育成状況の調査を行いました。

<アマモ苗の移植 R6.3.24>

大阪海さくらが大阪で配布した340ポットのアマモのうち、回収された95ポットと水槽で育苗した2ケースをコンテナ4基に移植して南東側の海域に設置しました。令和6年度は種の採取時期や気温などに悪条件が重なり、苗の発育が良くありませんでしたが、何とか移植分を確保することができました。コンテナ設置の際には、令和5年に植えたアマモ苗5株が40cm程に成長している様子も確認できました。



▲育苗ポットで育てたアマモ苗



▲養成コンテナに移植した状態



▲コンテナを水深1mの海底に設置



▲自宅や会社で育てた苗を持ち寄る



▲コンテナの設置位置

<移植後の調査>

令和6年度は移植した苗の状態が悪く、また、夏季の観察日には海底の透明度が低下したことから観察が困難でした。ただ、移植場所の海底には、かつてないほどの海藻の繁茂が見られ、種類も多種に及んでいることから、海域の生態系が豊かになってきていると思われます。



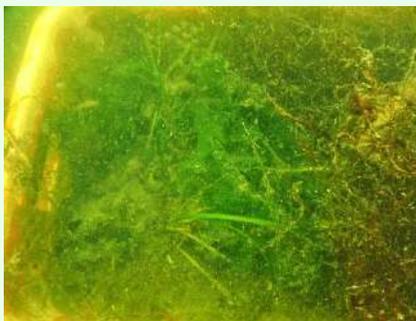
【4.27 調査】

令和5年に移植した苗2株がしっかりと根を張っている様子を確認（写真左）。写真右は令和6年3月に移植した苗。水中は比較的透明度が高く、コンテナの周りにはアオサが大量に繁茂していた。



【5.25 調査】

順調な苗の生育が見られた。令和5年に移植した苗は60cmまで成長。



【6.29 調査】

令和5年に移植した苗は、3株確認。令和6年3月に移植したものは、そのまま生育している様子。海水は透明度が低く、アオサなどの大量の海藻が発生していた。



【7.27 調査】

3月に移植したアマモ5株を養成コンテナから海底に移植。透明度5cmと濁りが激しく、周辺の観察はできなかった。海底はアオサに替わり、写真右の海藻が移植場所一帯に30cm程の厚みで繁茂していた。（寒天などに加工されるオゴノリ属と思われる。）

